

この70年の歩み

実質経済成長率の推移 (右目盛り)

年齢別の人口の推移 (左目盛り)

0~14歳 **15~64歳** **65歳以上**

復興期 **高度成長期** **低成長期** **バブル崩壊以降**

平均寿命

性別	1947年 完全生命表	2014年 簡易生命表
男性	50.06歳	80.50歳
女性	53.96歳	86.83歳

生涯未婚率 (国勢調査)

性別	1950年	2010年
男性	1.5%	20.1%
女性	1.4%	10.6%

単身世帯の割合

調査年	割合
1950年 国勢調査	5.4%
2014年 国民生活基礎調査	27.1%

主要な出来事:

- 日本国憲法公布 (46)
- 朝鮮戦争 (~53年)
- 第1次ベビーブーム (~49年)
- 「もはや戦後ではない」 (経済白書で)
- 国民皆年金皆保険
- 東京オリンピック
- 大阪万博 (~74年)
- 第2次ベビーブーム
- 沖縄、本土復帰
- 「福祉元年」
- 第1次オイルショック
- 田中角栄前首相逮捕
- ロッキード事件
- 第2次オイルショック
- 日本の平均寿命が男女とも世界に
- 昭和から平成へ
- 消費税率(税率3%)導入
- 自衛隊、初の海外派遣
- 地下鉄サリン事件
- 阪神・淡路大震災
- 消費税率5%
- 介護保険スタート
- リーマン・ショック
- 65歳以上人口が21%を超える「超高齢社会」に
- 東日本大震災
- 消費税率8%

1956 「戦後では私たちのくらしを支える経済成長や社会保障という観点から、戦後の大きな変化を時々の言葉から探ってみた。

「もはや「戦後」ではない」あまりにも有名なこの言葉は、1956年の年次経済報告（経済白書）に記された。終戦からの10年間、日本はめざましい勢いで国を立て直し、活力を取り戻した。朝鮮戦争の特殊もあって、55年には1人当たりの実質国民所得が戦前の水

ない」の真意

準を上回るまで回復。ただ、この言葉は、めざましい発展を遂げた日本の明るい未来を象徴して使われたわけではなかった。報告書を読むと、「経済の回復による浮揚力はほぼ使い尽くされた」「我々はいまや異なった事態に当面しようとしている」といった説明が並ぶ。むしろ、日本が将来も安定的な経済成長を続けていけるのか、という問題意識を投げかけるものだった。